

濱屋 空 さん

小学校教育課程 小学校教育コース
堺市（小学校教育諭）内定
創志学園高等学校出身



■ 学校種を目指したきっかけ

インターンシップで堺市内の小学校に行き、元気いっぱい活気のある子どもたちと出会いました。今はスクールサポーターや放課後児童会の先生として、堺市の子どもたちと関わり続けています。これからも堺市の子どもたちの成長をそばで支えたいという思いが強くなりました。

■ 大学での学び・教育実習での経験

教育実習では、休み時間に子どもたちと鬼ごっこやリレー大会を開いて遊ぶ中で、少しずつ関係を築いていきました。

研究授業では、宮沢賢治の『注文の多い料理店』を丁寧に読み進め、まとめの活動として「宮沢賢治新聞」を作りました。

こうした経験を通して、授業づくりの奥深さや楽しさ、子どもたちと一緒に学び続けることのやりがいを感じました。

■ 採用試験でのアピールポイント

私がアピールポイントにしたのは、これまで取り組んできた陸上競技や、大学で参加したPBL活動、そしてシャボン玉同好会で地域や行政と連携してワークショップを企画・運営した経験です。また、小学校でのスクールサポーターや放課後児童クラブの支援員として子どもたちと関わったこと、さらに、ゼミの二瓶先生主催の「国語の学びの会」に参加し、現場の先生方と物語文や説明文の授業について研究したり、校内研究会で討議したりした経験についても話しました。

■ 教職センターでのサポート

私は3つの自治体を受験したため、自治体ごとに試験内容が違い、対策がとても難しかったのですが、一つひとつ丁寧に指導いただきました。特に、小論文と模擬授業には苦労していたため、対策講座にはほぼ毎回参加しました。小論文は、書いて添削していただき、また書き直して見てもらうことを繰り返し、書くスピードや型が身につく、どんなテーマでも「自分のネタ」を持てるようになりました。

模擬授業講座では、時間を測って実際に授業をしてみる中で、修正すべきポイントや意識すべき点を丁寧に教えていただき、反復して練習できる機会をたくさんいただきました。

また、学生同士で披露し合い、お互いにアドバイスを掛け合うことも参考になり、良い学びになりました。さらに、個別の面接練習では、同じ先生に絞って見てもらうことも、いろいろな先生と練習することもでき、自由度が高かったので、自分に合った形で早い段階から練習する機会があり、とても良かったと思います。

■ 目指す教師像

私の理想の教師像は、「子どもと共に成長できる教師」です。放課後児童会での勤務を通して、子どもの表情やつぶやきに気づき、どう関わるべきかを日々考える中で、私自身も多くのことを学び、成長していると実感しました。この経験から、一方的に教えるのではなく、子どもたちの気づきや学びに耳を傾けながら、私自身も学び続ける姿勢を大切にしたいと思うようになりました。授業づくりにおいても、子どもの反応をもとに内容を見直したり、子どもが発見したことをみんなの学びに広げたりしながら、学び合いのある教室をつくりたいと考えています。そして、子どもが失敗したときには一緒に悩み、一緒に乗り越えていけるような、子どもと共に成長し続けられる教師を目指しています。

■ 後輩へのメッセージ

大事なことは主に2つあります。

まず1つ目は、早い段階から対策を始めることです。教採に限らずどの試験にもいえることですが、受きたい自治体の試験内容や日程をしっかり把握し、教養科目の勉強や面接ノートづくりには早めに取り組むことをおすすめします。

そして2つ目は、面接で自分の経験と「その自治体で教師になりたい」という思いをしっかり伝えることです。教員採用試験には、大学生だけでなく社会人経験のある方や大学院卒の方、他自治体での経験を持つ方など、さまざまな受験者がいます。その中で合格をつかむためには、自分が教育学生としてどのような学びを得てきたのか、そして教師になりたい強い気持ちを、具体的な経験を交えながら伝えることが大切です。伝える言葉や話し方も工夫すると良いと思います。